

新富町 ～持続可能で生き生きした地域農業の実現～

プロジェクトの概要

新富町はこれまでも「チャレンジの町」として発信し、企業誘致を行ってきた。農業に関しても「スタートアップの町」として町有地を活用したチャレンジ農業を目指している。

■課題

- 新富町園芸の主な品目は施設きゅうりと施設ピーマンとなっているが、施設きゅうりにおいては作付面積の減少が著しく、5年前（H28年）の約60%となっている。一方、単収は5年前とほぼ変わっていない。また、きゅうりとピーマン以外の品目が少ない。
- 新富町は、再生可能エネルギーを活用した町を目指しており、農業においても再生可能エネルギーを活用した低コスト化や高付加価値化に取り組んでいく必要がある。

■主な取組内容

① 町有地における実験農場の建設

約4haの町有農地に実験農場を建設し、企業及び地元農家と連携して新技術の実験を実施。技術が確立したら町内の園芸農家へ水平展開していく。
また、新富町の新たな特産品づくりとして、新品目の栽培実験場としても活用。

② 生産から販売までの一貫体制の確立

約4haの町有地に直売所を建設し、主にJA児湯が運営。また、今後ECサイトでの販売や輸出も視野に入れた加工場、冷凍・冷蔵倉庫等を建設し、町内に限らず児湯管内の出口戦略の確立。

③ ソーラーシェアリングを活用した農業の振興

ソーラーシェアリングを活用した露地栽培や施設園芸を行い、発電した電気を直売所等で活用する。
特に施設園芸においては、ハウス内を空調管理することにより端境期での農作物生産を行う。
また、新規就農者のハウスに活用することで経費を抑え、参入しやすくする。



連携したい企業像

【連携したい企業イメージ】

- 新技術や新品目を活用した農業を展開する企業
- 再生可能エネルギーを活用した農業を展開する企業
- 出口戦略を提案できる企業

【期待する技術・専門性】

- 施設園芸に関する新技術、新品目の提案
- 再生可能エネルギー活用に関する技術
- 出口戦略全般に関する専門性

【期待する効果】

- 新技術・新品目による農業所得の向上
- 脱炭素による低コスト生産
- 町内農産物の高値有利販売
- 新規参入者の増加

連携するメリット

【提供できる情報・資源・環境】

- 町内で同様の事業を展開している企業との連携
- 新技術・新品目に取り組むための町有地の提供
- 実証実験に向けた生産者・関係機関との連携
- 町有地を実証実験農場と位置付けているため、他社との連携も容易
- 新技術を水平展開していく場合の農家紹介、農地のあっせん等は町及びニューアグリベース（農業公社）が実施

【企業側の裁量】

- 実証・導入した技術は企業の実績として使用可能であり、水平展開のツールとして活用可能